

# 多様な働き方から学ぶ男女共同参画

都留文科大学生突撃インタビュー第2弾

都留市男女共同参画推進委員会

今回インタビューしたのは、看護師の渡辺司朗さん、ケアマネージャーの寺田貴俊さんです。

女性の多い職場で働く男性にスポットをあて、都留文科大学社会学科の学生で、男女共同参画社会について学んでいる石川瑛子さんと松野茜さんがお話しをうかがってきました。



看護師  
渡辺司朗さん

●出身・年齢・勤務してどれくらいなのか教えてください。

出身は都留市です。歳は27歳で勤めて3年目になります。

●看護師の仕事の内容を教えてください。

私は市立病院の病棟の中で働いているのですが、病院という場では一人の人が産まれるときから・・・正確には産まれる前から一人の人が亡くなるまでの健康に関するお手伝いをするという仕事ですね。昔は病気を治すことが

中心でしたが、今では患者さんがその後いかにして健康に過ごせるかをケアしていくことも重要となっています。

●男性より女性の方が多いという職場で不安はありませんか？

特にありませんね。私がここに就職した時には何人かの男性看護師がいましたので、そんなに抵抗を感じることはありませんでした。担当する患者さんを男性だから女性だからといった理由でわけれることも基本的にはありませんし、どちらかという患者さんの受け入れ状況を見ながら仕事を振り分けています。そのへんは男性看護師と女性看護師がお互いのメリットを活かしながら対応しています。

●看護師に必要なことは何ですか？

そうですね・・・、私自身の中では「初心を忘れない」ですかね。忙しさに流されていい加減にならないようにしています。



ケアマネージャー(介護支援専門員)  
寺田貴俊さん

●出身・年齢・勤務してどれくらいなのか教えてください。

出身は都留市で、歳は28歳です。8年目です。昨年の3月までは老人保健施設にいました。

●ケアマネージャーのお仕事を教えてください。

介護支援を必要とされている方に、適切な在宅や施設のサービスができるように、在宅サービス事業者、施設などと利用者同士をつないでいくという仕事です。僕が直接介護にあたるということではなく、利用者や家族の方にサービスの情報を提供し、希望を聞いてそのサービスが妥当かどうかを判断します。そして看護師さんやホームヘルパーさんと打ち合わせをし、介護情報を共有して利用者を支援していきます。

●この仕事をしていく中で、男性と女性との違いはありますか？

特に職場の中では違いは感じませんが、利用者側から男性、女性といった要望がたまにはありますね。僕としては、利用者の性別にかかわらず、その人にあつたケアプラン作りに努めています。

●この仕事の難しいところはありますか？

利用者それぞれのニーズにあつたケアプランを作っているつもりですが、そのプランに満足してもらえないのが、一番難しいところですね。その都度考えながらやっています。

●やりがいがありますか？

やりがいは確実にありますね。現場というか病院の中にいると患者さんと接し介護する事が主な仕事でしたが、今は利用者と家族の方々と相談し、利用者にあつた最適なケアプランを作成するという仕事なので、やりがいを感じています。

インタビューを終えて(石川)

答えていただいたお二人から、人のつながりを大事にし、それぞれのお仕事に自信をもって携わっていると感じました。